

ふちゅうこくさいこうりゅう 府中国際交流サロンは、府中に住む
にほんじん がいこくじん なかよ たす あ
日本人と外国人が、仲良く助け合っ
たの せいかつ ねが かつどう
楽しく生活していくことを願って、活動
をつづ 続けています。

くろするる〜ど

会報誌

2016/9月号

〜サロン月間カレンダー9月〜



〜イベント報告〜

■サロンでお茶会

9月2日(金) 午前10時30分〜12時

ダンス教室

9月9日(金) 午前10時30分〜12時

絵手紙教室 (費用200円)

9月16日(金) 午前10時30分〜12時

生け花教室 (花代500円)

9月23日(金) 午前10時30分〜12時

ダンス教室

9月30日(金) 午前10時30分〜12時

浴衣着付け教室 (浴衣レンタル料100円)

要予約



「わたしのふるさとを語る」

—国際ふれあい会が開催されました—

金曜夜ボランティア 金澤利典

7月9日(土)、ルミエール府中において今年で4回目となる国際交流の集いが開催され、雨にもかかわらず、40名の参加者でおおいに盛り上がりました。

今回ふるさとを語ってくれたのは、グアテマラ共和国(中南米)のカルロス・ゴンザレスさんと新疆ウイグル自治区(中華人民共和国)のヌルビヤ・マイマイティさんの二人です。

グアテマラ共和国は日本の北海道と四国を合わせたより少し大きい面積に約1600万人(マヤ系先住民46%、欧州系30%など、23民族)が暮らし、日本人にはコーヒー豆やバナナの生産で有名です。スライドで腹の赤い国鳥ケツアルやフォルクローレ音楽も紹介されました。また火山があり地震も多いことや、料理が辛いメキシコの隣国なのにグアテマラ料理は辛いという話は初めて知りました。

新疆ウイグル自治区は日本の4.5倍の面積に約1900万人(ウイグル族45%、カザフ族7%、漢族41%など)が暮らし、果物栽培や繊維産業が盛んで、チョコレートのアーモンドナッツや干しぶドウは世界中に輸出されています。さらに当日のサプライズとして民族の踊りも披露してくれました

報告の後は、手作りの焼き菓子やコーヒーなどを飲食しながら、二人を囲み交流を深めました。私が特に印象

★対象はサロン学習者またはボランティアの方。

★申込みはサロン事務局まで。見学は自由です。

■ボランティア勉強会

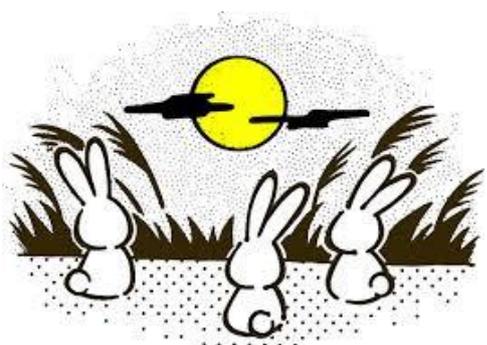
テーマ: 「新ボランティアさん ようこそ！」

—サロン・オリエンテーション—

サロンの活動紹介と、みなさんの質問にお答えします。

日時: 9月21日(水) 午前10時〜12時

場所: サロン3階第一会議室



に残ったのは、二人とも留学生であり、「日本の環境問題」について学び、自国の発展に生かしたいと語っていたことです。世界の若者はただ経済発展だけを指しているのではなく、人間にやさしい調和のとれた発展を目指していることを知って、本当に心強く思いました。



カルロス君(グアテマラ)



ヌルピヤさん(中国ウイグル自治区)

「美味しかった！」

～タイ・ベトナム・ミャンマーの料理を堪能～

水曜午後・ボランティア 市村秀子

7月1日(金)、ルミエールで「アジア料理教室」がありました。

タイの小野アムパさんからは、「ヤム・ウンセン」という春雨サラダを教えてくださいました。タレは唐辛子、ニンニク、パクチーの茎と根、ナンプラーやレモン汁などを入れてミキサーにかけます。見るからに辛そう！でも、これがとても美味しいのです。春雨と茹でたエビやイカ、たくさんの生野菜をあえたヘルシーな一品ができました。タイ料理のお店で食べたサラダと、まさに同じ味でした。感激！

ベトナムのダンティ・タムさんからは、ベトナム

の代表的な料理である「生春巻き」を教えてくださいました。卵焼き、エビ、茹でた豚肉とたくさんの野菜を丁寧に巻いて、見た目にもきれいな生春巻きの完成です。市の広報紙を見て参加された方々が「我が家は〇〇を入れるのよ」「我が家は〇〇」と、もはやベトナムの「生春巻き」は、日本の食卓に普通に上っているんですね。

ミャンマーのエイマーチョウさんからは、「ココナッツライス」と「チキンカレー」を教えてくださいました。3合のお米をといで、水を白米の3合の目盛りのところまで入れます。その他にココナッツミルクを100ccと塩と砂糖を加えます。炊き上がり10分前に炒めた玉ねぎを炊飯器に入れます。「こんなに入れたら、ご飯が柔らかくならないかしら?」「油っぽくない?」という私たちの疑問に、エイマーさんはニコニコしながら「だいじょうぶ!」と自信満々の返事。出来上がりは、エイマーさんのおっしゃるとおり、柔らかくもなく、ちょうどいい具合に美味しく炊けました。いったい、ココナッツミルクや玉ねぎの水分はどこに行ったのやら、未だに謎です… また、玉ねぎをキツネ色になるまで炒めた「チキンカレー」は絶品でした。

私の若い頃(いつだ?)は、ナンプラーやココナッツミルクやライスペーパーなどは簡単に手に入りませんでした。しかし、今は府中のどこのスーパーでも売っています。ただ、これらアジアの食材の使い方を知らないだけです。今回参加して、料理のレパートリーが増えました。また、「食を通して、いろいろな国を知る」良い機会でした。そして、何よりも美味しく、お腹も気持ちも豊かになるひと時でした。



「料理教室はたのしい！」

朴 明賢(韓国)

ナンスーサン (ミャンマー)

国際交流サロンではさまざまな活動があります。日本語クラス、生け花、踊り、料理教室、とほかのばんぐみでおもしろいサロンです。

私は料理にきょうみがあって、7月1日にサロンの料理教室をはじめてさんかしました。

府中市としょかんの2かいで、10:00から1:30までかいさいされました。さんかした方は、日本語の先生、りゅうがくせい、ふちゅうしみん、ぜんぶで45人くらいでした。

料理のつくりかたをおしえた方は、タイ人、ベトナム人、ミャンマー人です。タイの方はヤム・ウンセン、ベトナムの方ははるまき、ミャンマーの方はココナツととりにく料理をおしえました。

おしえているときに、みんなメモをとって、しつもんをきいて、そのあとはグループで料理をつくるのです。

みんなで料理をつくるのは、とてもたのしかったです。やさいをさいたり、ちょうみりょうを入れたり、わからないことを先生たちにきいたり、12:30ぶんになりました。そんなじかんになるのもしかなかった。料理がぜんぶできたら、みんなでたべました。まいにちたべているあじじゃなくて、すばらしいりょうりをごちそうさまでした。そんなおいしい料理ができたので、うらやましかったです。

じつは、料理教室でおしえてもらったのは、料理のつくり方だけではなくて、料理によってあたらしいことば、グループかつどう、日本人とはなすチャンス、ともだち。

40~50人ぐらい料理をつくれるへやと、キッチン設備をかりられることはすごいなおもいました。

料理教室はさんかするちががあるので、みなさん日本にいるうちにかならずさんかしてください。

7月8日、サロンで心臓停止の応急処置法と地震などによる避難シミュレーションの授業がありました。いずれも安全に関連されたものです。

まず、心臓停止状態に救急車が来る前、緊急処置でできる心肺蘇生術(心臓マッサージ)とAEDを使用する方法と関連されたマニュアルについて教えてくださいました。先生は心臓マッサージができる人形で手本を見せました。心臓の位置、方法などについて教えてくれた後私たちは人形でそれぞれ練習してみました。思ったより圧迫した時、多くの力が必要、初めて人形で練習をしてみたのに本当に大変でした。そして練習だが、緊張しました。AEDは心臓停止されている患者に電気衝撃を与えて心臓の正常なリズムを持って来させてくれる道具で、医学知識が不足した初心者も簡単に使用できるように作られています。私は今回にAED機械を初めて見ましたが、使用法を学んで非常に不思議でした。「この機械で言葉が出てるんだ、あっ、日本語だ。」と考えながら日本語を聞くため、注意しました。緊急状況にマニュアル通りに救急車を呼んでAEDを使用して応急処置する方法を学びながら、普段に通いながらAEDがいる場所はどこかチェックしてみるのも大事だと思いました。そして日本語で誰かに助けを要請する言葉もよく学ばなければならぬと思いました。

第二に、地震発生時の安全教育について練習して、安全な場所へ移動することを練習しました。かんにくくに生きていて一度も地震の経験がなかったため、普段に地震に備える考えをしないうでいたが、日本に住みながら地震を経験して、最近に起きた残念な熊本地震を見ながら普段の練習が重要だということを知りました。何よりも落ち着いた心を持って安全に避難することが重要だと思えます。

このような経験と安全の練習を手伝ってくれた関係者の方、先生たちに感謝いたします。



「おもしろかったみずうち！ たのしかったゆかた！」

クボタ・サンサニ・ピムパフ(タイ)

みずうちはおもしろかったです。きょねん、わたしはふちゅうえきで、みずうちのこうこうくをみました。タイにもみずまつりがあります。とてもなつかしくおもいました。わたしはみずうちにいきたいとおもいました。

ことし、サロンでタイのともだちがわたしをみずうちにさそいました。ゆかたをきるいいきかいだとおもったので、みずうちにいくことにしました。みずうちは7月30日でした。そのひは、あつくてとてもひざしがつよかったです。きれいなゆかたをきる事ができて、とてもうれしかったです。みずうちまつりでは、はじめにゆかたのおびのむすびかたをしょうかいしました。そのあと、だいがくのりゅうがくせいによるファッションショーがありました。そのあと、サロンのみんなは、ひとりずつなまえとくにをしょうかいしました。さいごにみずうちをしました。わたしたちは、いちれつにならんでみずをまきました。みずうちのあと、とてもすずしくなりました。タイのみずまつりはすこしちがって、みずをほかのひとにまきます。みずうちまつりは、にほんのぶんかをもっとすることができて、とてもよいけいけんになりました。また、らいねんもさんかしたいです。



右から2番目がピムパフさん

わたし くにじまん
私のお国自慢 ~14~

「ウイグルをたくさん紹介したいです！」

ヌルビヤ マイマイティ
(中国新疆ウイグル自治区)

新疆ウイグル自治区は、中国の西部に位置しております。ウイグルの面積は中国の省自治区の中で最大であり、中国全体の6分の1を占め日本の4.5倍です。首府はウルムチです。大体のウイグル人はウイグル語だけではなく、中国語も知っています。

ウイグル人はイスラム教なので必ずハラール(イスラム教で許された)食材を用います。料理には小麦粉をよく使います。ウイグルの菓物は、おいしいしやすいです。ぶどうやナツメやメロンやザクロなどは、とても人気があります。



お祭りの日のヌルビヤ家食卓

ウイグルの民族衣装は色々あります。歴史のある伝統的な建物もたくさんあります。世界で2番目のタクラカン砂漠が新疆にあるのに、有名な山や湖など良いところもあります。



新疆の天山



アドラスの服を着た子供

新疆ウルムチ
国際バザール



新疆には紹介したいところがいっぱいあります。チャンスがあったらぜひいらっしやってください。

チェウンカンリー モアンボンサさん(ラオス)



「日本でもう一度勉強したいです」

名前が発音しにくいので、ニックネームの「リリー」と呼ばせてもらいます。

リリーはラオスの首都ビエンチャンで育ち、大学もそこで3年間行き、奨学金を射止め、日本の農工大の4年生として昨年来日しました。10月からラオスの大学で4年生をもう一度勉強しなければなりません、卒業したら、国際機関で働きたいと思っています。

専攻は環境科学ですが、日本では農業科学に絞って勉強しました。しばらく働いてからもう一度日本に来て修士課程を勉強したいとの夢をもっています。そして、将来はその研究を生かしてラオスの農村を豊かに出来れば良いと考えています。

日本の印象は、人々が親切だということです。夜遅く道を聞いたとき、外国人で、言葉では無理だと思ったその人は、15分もかかる駅までの道を案内してくれたそうです。また、サロンでは先生方が無償のボランティアなのにとっても楽しそうに教えて下さることに感激しました。

好きな日本語は、「たとえば・・・」と「たぶん」で、食べ物はお寿司と天ぷらが大好きとのことです。

ご自分では「ひとみしり」で初対面の人とか、親しくない人とはあまり会話が出来ないとおっしゃっていましたが、とても楽しくインタビューをさせていただきました。

もう一度日本に来たいので、日本語を勉強をしているというリリーが、何年か後に再びサロンにも顔を出してくれたらうれしいですね。(堤林)

—学習者があきない2時間の使い方—

研修部会 萱生由美子

7月20日は研修中の方達11名を含む28名が参加しました。

まずは見学を体験した方達の感想、質問と、現ボランティア(以下Ⓢ)さんからの意見です。

Q: 英語は単語レベルなら使っているのか?

A: 辞書で確認するのは良い。短期滞在者などはいいが、最初に使うとずっと使ってしまうので日本語が定着しない。なるべく日本語で。

Q: 若い人に、若者向け教材を使っていた。

A: 若者向けの言葉もいいが、「きもい」などは相手によっては不快感を与えるということを伝える必要がある。

Q: Ⓢが学習者のレベルに合った話しをしていなかった。

A: 学習者の経歴、家庭環境などで理解力も異なる。Ⓢは学習者の日本語レベルをきちんと把握し、それに合った話し方や指導法が必要。

Q: マッチングのミスもあるのでは?

A: 各部長さんは普段から様子を見ることで、学習者とⓈの相性を見きわめてほしい。

また、Ⓢさんから次のような具体的な授業の進め方のヒントが示されました。

◇「聞く」「話す」「読む」「書く」のバランスを考えて進める。

◇集中力は10分位しか続かないので、Ⓢが工夫をして内容を準備しておくことが大切。

◇2時間を3つに区切って実践している。(資料参照)

まとめとして、2時間の授業内容は決まったマニュアルがありません。個々の学習者のニーズに合わせた組み立てが必要で、何よりあきさせない工夫、準備がⓈに求められます。

参考資料: 「日本語ボランティアへの12の扉」(川上京子先生)

P.7に2時間の組み立ての一例が載っています。

ねん どきょうじゅほうけんしゅう お
～2016年度教授法研修を終えて～

「日本語教授法研修・初級 I に参加して」

きさきやうこ
木坂陽子

言葉が通じない場所で生活する事は不安だ。相手の言う事を理解し自分の意図を解ってもらうことの大変さ。買い物一つするのも物凄いエネルギーが必要だろう。情報は入手しやすくなっているが実際にコミュニケーションをとることはまた違う。その部分を手伝えるのが、このボランティアだと思い応募した。

柏崎先生の講義は聴きやすく分かりやすかった。お人柄であろうユーモア溢れる優しい話し方で、一回二時間の講義時間がさほど長く感じなかった。グループ練習は最初は戸惑ったが回を重ねるにつれてやり易くなった。自分の理解している国語文法と違った形で教えなければならないというのが難しいと思った。

全く未経験なので実際にボランティアをするにはどのようにすればいいのかイメージし難かった。今回の講座や見学・体験を通して、サロンに来る学習者それぞれに、個別に臨機応変に対応していくのだと理解した。実際に始めてみないとわからない事が多いと思うが、自分に出来る限りの方法で学習者の役に立てるよう、9月からの活動に参加したい。



かしわぎせんせい けんしゅうふうけい
柏崎先生と研修風景

がくしゅうしゃ いよく たか
「学習者の意欲を高めるには？」

けんしゅうでまなんだこと」

はらだみつひこ
原田満彦

今回の柏崎先生の研修を通して、日本語学習者への教授に対する三つの重要な指針を得ました。一つ目は、先生は私たちのどんな質問にも親身になって答えてくれたことです。その質問に共感し受け入れて、わかりやすく解決してくれるのです。学習者は予想もしない様々な疑問を投げかけてくるでしょう。その際、先生が私達に「いい質問ですね」と言って、時間をとってくださったこと思い出して、学習者の質問を重く受け止めようと思います。二つ目は、ほめることの大切さです。各グループで例文を作って発表したり、モデル授業の学習者役になって答えたりしたとき、よくできた答えに対して先生は心から称賛してくれるのです。ほめられるとやる気になります。三つ目は、講義だけでなく活動場面があり、飽きない工夫がされていました。興味深いレリアやイラストが用意され、黒板も使用されました。先生はグループでの文型練習の時も、机間巡視をして声をかけてくれます。日本語学習は楽しい中で行われなければ、良い結果を生まないでしょう。今回の研修は、ボランティアとして頑張ろうという気持ちを一層強くしてくれました。

日本語おちほひろい

～38～

かなた
「500 マイルの彼方へ」

きんようよる わだやすひろ
金曜夜ボランティア 和田泰弘

5月のある日、ふと思い立ち、『銀河鉄道の夜』を読み返しました。その翌日の夜、高校時代の音楽仲間Tくんの訃報が届きました。

銀河を走る列車に乗って旅をするジョバンニとカンパネルラの物語は、宮沢賢治が、若くして逝った妹・トシを悼んで書いたものと伝えられています。賢治は妹の魂の行方を求め、北の果て、オホーツ

私の☆つぶやき

サロン・ツィター・コーナー

「新人ボランティアさんに捧げる やぶにらみアドバイス」

～シーラカンスのたわごと⑩～

クまで彷徨し、ついには星がたくさん瞬く銀河の向こうに妹がいるのだと得心しました。そんなことを気にかけて本を読むと、銀河鉄道を走るの、この世と別れていく人々をあのに運ぶ列車だということに思い至ります。

『銀河鉄道の夜』を再読した日は、Tくんが亡くなって4日後のことでしたが、それから暫く、Tくんに導かれて読んだという思いが頭から離れません。昨年9月と12月の、私のバンドの演奏会に顔を見せ、打ち上げでは一緒に歌い、来年はジョイントライブで『500マイル』を歌おうと約束したばかりでした。

“If you miss the train I’ m on, you will know that I’ m gone”ではじまる、フォークソングの名曲『500マイル』は、1920年代、アメリカが大恐慌に見舞われたとき、ホーボーと呼ばれる、職を失った男たちが、家や恋人と別れ列車を乗り継いで新天地を求めていく姿を描いています。いろいろな歌手やグループが歌う中で、ひととき異彩を放つのは、3年前に他界した忌野清志郎が歌うそれです。原曲の味わいをとどめながら、自作の日本語の歌詞は、シンプルな「ことば」のひとつひとつに「別れ」の真摯があふれ、心打つものがあります。いま耳を傾けると、500マイルより彼方へ旅立ってしまった彼の辞世にも聞こえてきます。

『つぎの汽車が 駅に着いたら この街を離れ遠く500マイルの見知らぬ街へ 僕は出ていく 500マイル…ひとつ ふたつ みつつ よつつ 思い出数えて 500マイル…やさしい人よ いとしい友よ 懐かしい家よ さようなら…』

Tくんを想ってこの歌詞を口ずさむと、私の中で、忌野清志郎の『500マイル』のイメージが、銀河鉄道を走る列車のそれと重なってくるのです。

高校時代、フォーク・グループを組み、ブラザーズ・フォアの曲を得意としたTくん。いま、銀河を走る列車に乗り、ギターを弾きながら歌う彼の『500マイル』が聞こえてくるようです。



新しいボランティアの皆さん、ようこそサロンへ！
サロン歴14年目のとうの立った先輩から、やぶにらみアドバイスをいくつか…（サロン非公認、笑）

1. まず肩の力を抜いて、楽に！

我々は所詮アマチュア。最初から完璧な授業なんて目指さないこと。

2. 生徒と「仲良し」になろう！

先生も生徒も永續きするためには、まず仲良くなること。「上から目線」は禁物。「友だち目線」でいこう。

3. 英語は「ほどほどに使っていい」。

日本語はビギナーでも英語なら通じる生徒には、必要最小限の英語は使ってかまわない。ただし、英語に頼ってはいけませんぜ。

4. 学習者はどンドン褒めよう！

「褒められればやる気になる」のは、日本人も外国人も同じ。「よく出来ました！」は魔法のことば。

5. 相談できる「先輩ボランティア」をつくらう！

サロンのボランティアは「いい人ぞろい」。授業中困った時に「ちょっと相談できる先輩」を持っておくと便利。

6. 同国人の学習者に通訳してもらおう！

同じクラスに同国人の学習者がいたら、ちょっと通訳してもらおうと便利。

7. なるべく学習者に話させよう！

先生がしゃべり過ぎると生徒は引いてしまう。先生はなるべく聞き役に…

8. 「できるだけゆっくり」話してあげよう！

早口の説明は、生徒には「地獄」。ゆっくり過ぎ
と思うほどゆっくりで、ちょうどいい。

サロンの授業の特長は「1対1」の家庭教師スタイル。
笑顔で楽しく授業して、信頼関係をつくりましょう。
厳しすぎる先生は生徒に逃げられませ。

(文責：シーラカンス)

みんなの広場

「車椅子の落語家・林家かん平さんの ドキュメント映画が公開に」

府中市在住の落語家、林家かん平さんのドキュメン
タリー映画『涙の数だけ笑おうよ～林家かん平
奮闘記』がこのほど完成、公開の運びとなりました。

かん平さんは、故・林家三平師匠に弟子入りし真打
まで昇進しましたが、26年前41歳のとき、師匠の
追善興行の打ち上げの夜、脳溢血で倒れました。
翌年、奇跡的に高座へ復帰したものの、症状は重く、
入院、リハビリの繰り返しを余儀なくされ、それに
加え、長崎での被爆体験を持つ高齢の母親の介護が
重なりました。出口のない絶望の日々が続く中、
「頑張っていれば、きっと神様のご褒美をくれる」
という言葉に出会い、座布団から車椅子に変わろう
とも、もういちど高座へ上がりたいという一念のも
と、かん平さんの不屈の闘いが始まりました。

この作品は、何ごともあきらめないというかん平
さん自らの強い気持ちと仲間の励ましによって彼が
再び高座へ上がるまでの日々を記録した感動のド
キュメンタリー映画です。

府中市の福祉課も全面的に撮影協力し、本編には
市内のいろいろな景色も登場します。完成直後の8
月1日には、かん平さん、竹藤監督、企画・製作の荻野
さん(白糸台在住)等スタッフが完成の報告方々、
高野市長を表敬訪問しました。この時の様子は、
府中市のホームページの「クローズアップ府中」で

紹介されました。府中の縁で結ばれたこの作品、9月
3日(土)から新宿・角川シネマでロードショー公開
されます。『涙の数だけ笑おうよ～林家かん平
奮闘記』の予告編はじめ詳しい内容はこちらでご覧
になれます。<http://www.nkw-kanpei.com> (編集部)



落語を披露する林家かん平さん

～編集後記～

夏休みもあつという間に終わり、いよいよ9月の
新学期。希望に燃える新しい先生方が沢山デビュ
ーされます。

その新ボラさんたちのために、出来の悪い先輩か
らの「やぶにらみアドバイス」を書いてみました。役
に立つこと、立たないこと、あれこれ取り混ぜ…。

サロンのボランティア生活をぜひ一緒に楽しみま
しょうね。(篠塚)

絵手紙



チョウ リリ (中国)

【編集】会報部会/ 安島 さかくら しのづか しんどう
たかなぎ つつみばやし ますだ わだ
高柳 堤林 増田 和田

【事務局】電話：042-352-4178

E-mail: salon@fuchukokusai.gr.jp

サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>

